

サーキュラーエコノミーEXPO展示会アンケート結果より

ひらけごみ！

みんなの課題を見える化する

資源循環の取り組み実態調査レポート

株式会社ごみの学校

2026.03

アンケート調査を実施！

みなさん、こんにちは！ごみの学校の藤井です。

12月に開催されたサーキュラーパートナーシップEXPOにてブースに来てくださった方に、所属している会社や団体の資源循環の取り組みに関する現状や困りごとを調査するアンケートを実施しました！

ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

今、誰がどんなことに困っているのかをみんなでシェアすることで、少しずつでもみんなで取り組んでいくことができなにか考えたいと思い、まとめてみました。



寺井さんからひとこと



みなさん我々のブースにお越しいただきありがとうございました！
今、みなさんがどこで引っかかっているのか。どこで手が止まっているのか。
それを一回、ちゃんと出してみよう、というのがこのアンケートです。
誰かの悩みって、だいたい誰かの悩みでもあるので、全員で考えるきっかけになればと思います！

アンケート項目

期間：12月10日～12月12日（合計3日間）

場所：サーキュラーパートナーシップEXPOにて、ごみの学校のブースに遊びにきてくれた方

集計数：58名



基本情報

Q1 あなたの立場

Q2 業界・業種



取り組むにあたって、社内で困っていること、やってみたいこと

Q5 社内で進める時の組織課題は？

Q6 今後検討したい取り組みは？



自分たちの資源循環の取り組みの現状を把握しよう

Q3 廃棄物・資源に関する現状把握はどこまで進んでる？

Q4 見える化で課題を感じる点は？



自分たちの取り組みを外に広げることで困っていること

Q7 社内外に広げる面での困りごとは？

Q8 外部との連携についてはどう感じる？



自由記述

Q9 サーキュラーエコノミー推進のボトルネックはありますか？

Q10 他社への関心

回答者属性の傾向

Q1. あなたの所属している部署を教えてください



Q2. 業界・業種



✔ ポイントおさらい



現場の「実務担当者」と「研究・公的機関」の担当者の方が多く回答してくださいました。

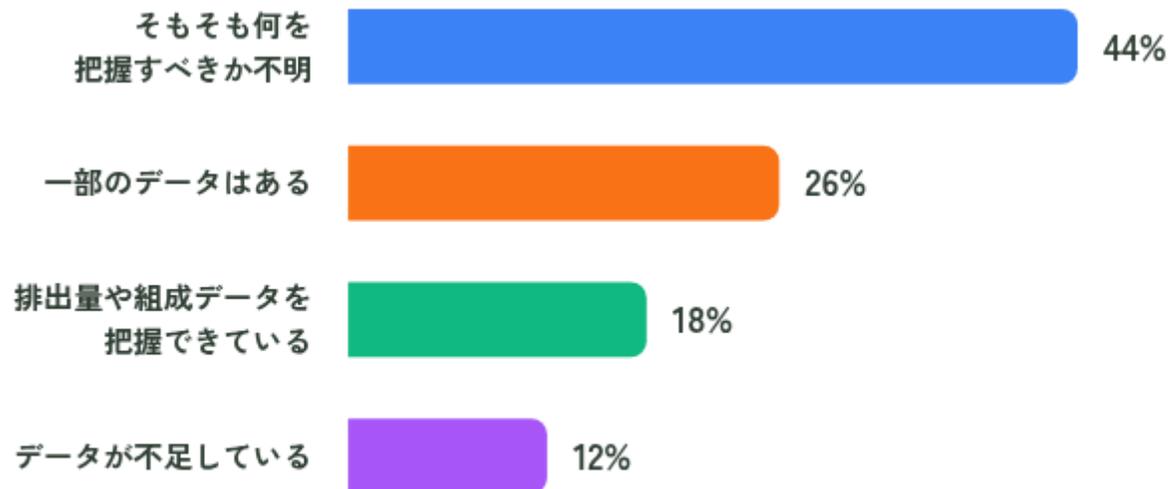
CSR・サステナや企画・開発だけでなく、教育・研究や行政・公共の割合も高く、地域や社会全体で「どう循環を作るか」を考えている人が多いことがわかりますね。

寺井さんからのコメント



- ・環境部署の方だけでなく、企画・教育・経営者の方まで幅広い部署の方が来られていました。サステナビリティが少しずつ実務的な方々に広がっている印象ですね。
- ・業種としては教育、行政系の方が多く来られていましたが、製造業などの方は少ない印象を受けました。エコプロなどもあり、やや B to C 関係の方が多かったようですね。

Q3. 廃棄物・資源に関する現状把握はどこまで進んでいますか？



💡 ポイントおさらい



約半数が「そもそも何を把握すれば良いのか」がわからないままという現状のようです。

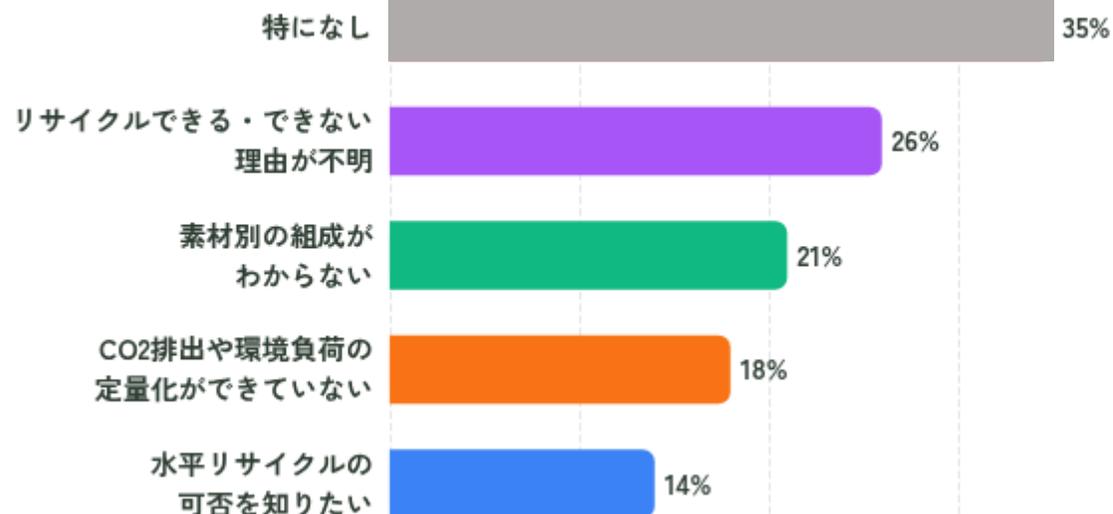
データを集める前に、「何を見える化したいのか」を整理することが必要になってきます。

🗨️ 寺井さんからのコメント



- ・廃棄物や資源循環に関して、なんとなくやらないといけないとは理解しているものの、具体的に何から手を付けるべきか？になると急にわからなくなるという意見が多かったですね。
- ・そもそもコストを下げたいのか、PRにつなげたいのか、新事業を行いたいのかなど、会社内で目的を整理しておかないと、「何したらよいのか？」という壁に当たることが多いです。まず自社にとって優先的に考えるべきことを整理してみましょう。

Q4. 自社の廃棄物や素材についての見える化で、課題を感じる点がありますか？（複数選択可）



✔ ポイントおさらい



「特になし」を除くと、「リサイクルできる・できない理由がわからない」という回答が一番多い結果となりました。まずは素材の組成などを調べる必要があるかもしれません。

素材の組成やCO2排出量など、「もっと詳しく知りたいけど、どうやって調べればいいのかわからない」という声も多く出ていました。

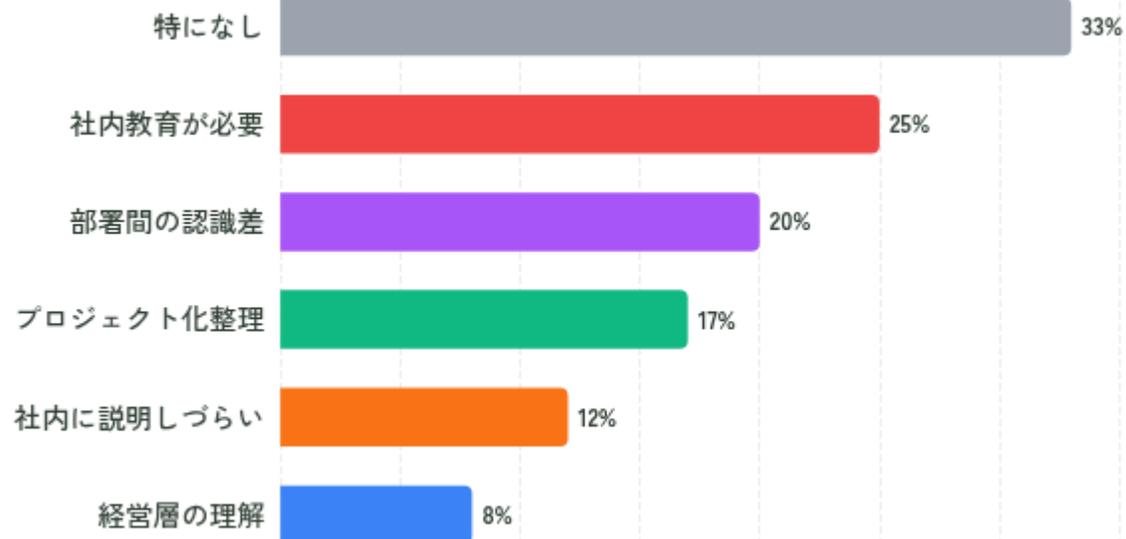
寺井さんからのコメント



- ・ 自社の出したごみや商品だとして、実際にどんなものがどんな内訳で入っているか、どのように捨てられているかを正確に把握することは難しいですね。
- ・ ごみの世界の技術やルールはまたモノを作るルールや考え方とは違っているので、そこを把握することに苦労されているのではないかと思います。まずは社内のごみ袋を調べたり、消費者の気持ちで自社の商品を解体したり、分別してみることをお勧めします。

取り組むにあたって、社内で困っていること、やってみたいこと

Q5. 社内でサーキュラーエコノミーを推進する際の組織課題はありますか？



✔ ポイントおさらい



「特になし」を除くと、課題の上位は「社内教育（25%）」と「部署間の認識差（20%）」でした。

同じ会社なのに、部署によって理解や考え方が違うと、なかなか前に進めない、というお悩みもよく伺います。

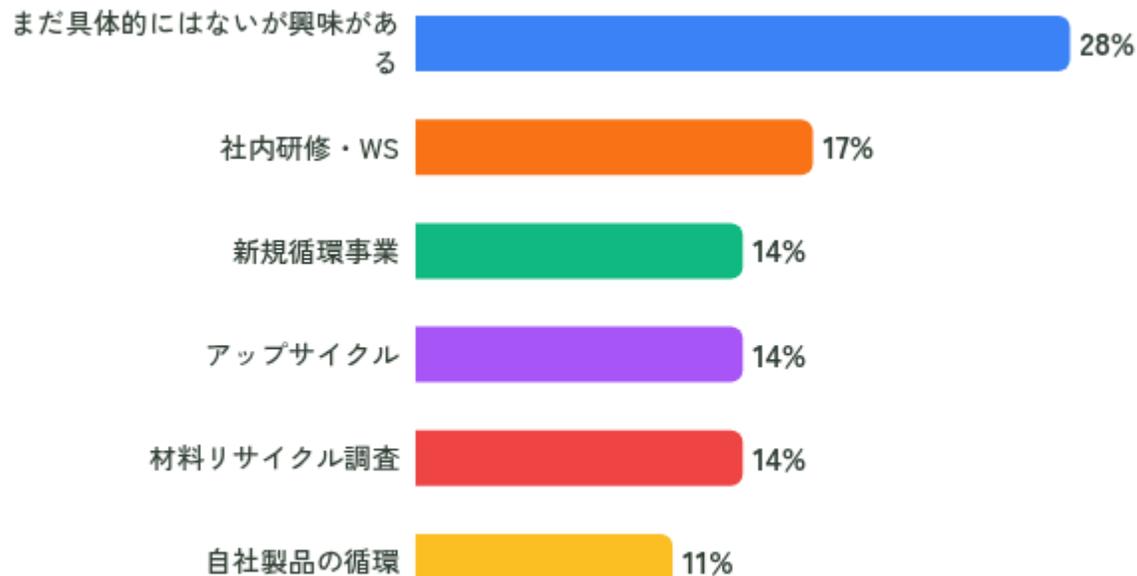
社内のみなさんで認識を揃えることで、共通の言葉で話せるようになると進めやすくなりそうですね。

寺井さんからのコメント



- ・社内教育などで部署間の認識差を埋める必要性を求める声が多かったですね。よくある現象として、サステナ部署がやりたいことと、事業部が求めていることが違い社内調整が進まないという事が良くあります。
- ・サーキュラーエコノミーを「環境問題」として外の課題として理解するのか、自社事業のピンチやチャンスとして内の課題として理解するのかで大きな認識の差が出てきます。多くの環境課題の中でもサーキュラーエコノミーは事業部の課題に直結することが多いテーマのため、自社にとってどういう事が起きるのか？を正しく理解して伝えていきたいですね。

Q6. 今後検討したい取り組みを教えてください（複数選択可）



✔ ポイントおさらい



「まだ具体的にはないけど興味がある」が28%で一番多い結果になりました。

「やりたい気持ちはあるけど、何から始めればいいのかわからない」という人が多いですね。

社内研修やワークショップなどで、まずはみんなと一緒に学んでみることから、始められる企業も多いなと感じます。

寺井さんからのコメント

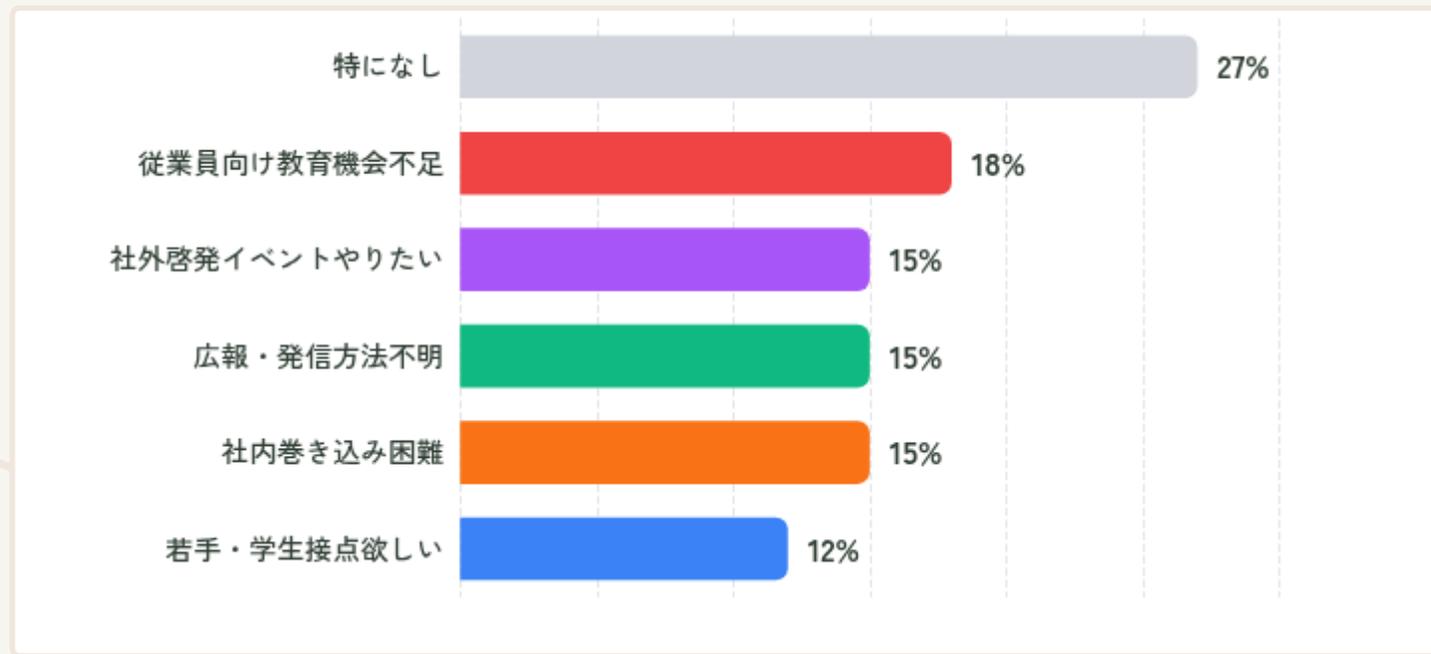


・サーキュラーエコノミーを本格的に進めていくには、投資・時間・人手が大きくかかるケースが多いです。欧州などでは大きな転換も進んでおりますが、日本は大きな規制や市場拡大が起きているわけではありません。何か出来事が起こる前に、まず社内でサーキュラーエコノミーに関して理解したり、考えてみる時間を設けても良いかと思います。

大きな投資をするのではなく、顧客や地域とコミュニケーションをとり、「自社にとってのサーキュラーは何か？」を考える機会を創っていくことが大切だと思います。

自分たちの取り組みを外に広げることで困っていることを考えよう

Q7. 循環の取り組みを社内外に広げる面で、困っていることはありますか？（複数選択可）



✔ ポイントおさらい



「特になし」を除くと、「従業員向けの教育機会が不足(18%)」が一番多い結果となりました。

社内の人に資源循環の取り組みを知ってもらいたいけど、教え方も教える人もいないというのが課題になっていそうですね。

また、自社の取り組みを外に発信したいけど、何を・どう伝えればいいのかも悩んでいる方が多いのも共感できます。

寺井さんからのコメント



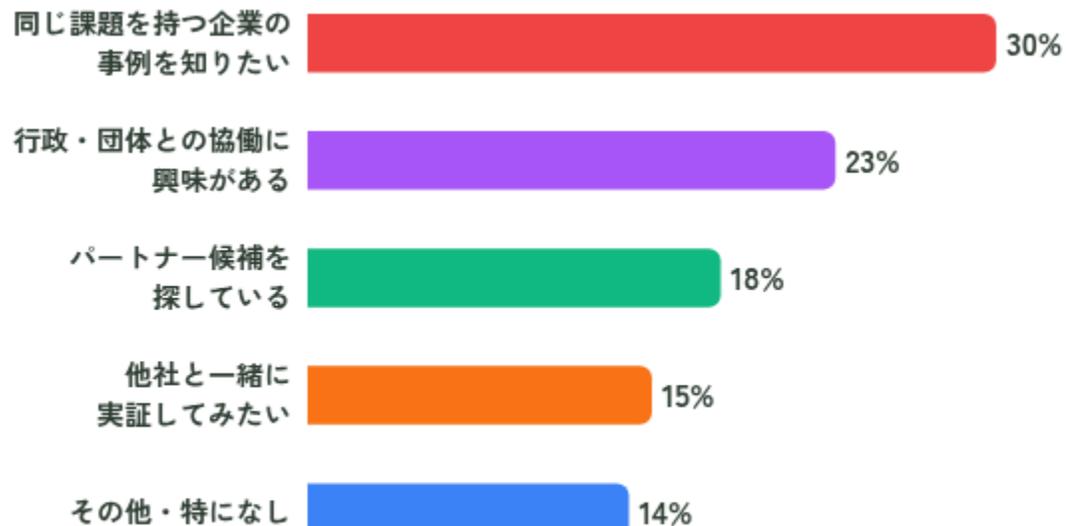
回答が分散した印象ですね。

サーキュラーエコノミーは多くの利害関係者の方を巻き込んでこそ長く、魅力のある仕組みをつくることができます。

目の前の顧客だけでなく、従業員の家族や、近隣の住民の方など、取引関係が直接無い方が比較的声が届く距離にいる方をまずは巻き込んでいくことが始めやすいと思います。

拍手喝采の取組よりも、来てくれた方と握手のできるような取組が将来に関わってくれるファンを増やすことになると思います。

Q8. 資源循環を進める上で外部との連携についてはどのように感じていますか？



✔ ポイントおさらい



「同じ課題を持つ企業の事例を知りたい」(30%)
が一番多かったです。

いきなり連携するよりも、まずは「他の会社はどう
やっているのか？」と、知りたいようですね。

まずは事例を知ることから始めて、少しずつ仲間を
探したいと思っている人が多いようなので、私たち
はそのサポートができるといいなと思います。

寺井さんからのコメント



他の方々の事例を知りたいと回答されている方が多いですね。
メディアやプレスリリースで見るような派手な取り組みではなく、自社が真似できそう、参考になりそうな事例を探されている印象でした。我々がリサーチをしている中でも、あまり知られてはいないが、良い取り組みはいくつもあるのです。そうした事例をうまく共有したいですね。

Q9. サーキュラーエコノミー推進のボトルネックはありますか？

企業・企画

全体としてみて、どの方法が一番環境負荷が低いのかの検討が難しい。

CSR

一般廃棄物のリサイクル方法がないか模索中。担当部署以外の社員、テナント様の意識醸成。

行政

自治体ごとに取り組みのベクトルが定まっていない。

研究・技術

リサイクル技術はあるが、コスト面で社会実装が進まない。

✔ ポイントおさらい



みんな「どうやって環境負荷を測るか」や「社員の意識をどう変えるか」で悩んでいるようですね。

技術的な課題というよりは、コストや組織、仕組みの部分で壁を感じている人が多いということがわかる結果になりました。

寺井さんからのコメント



個別の課題については、共感するケースが多いですね。日本の場合、政府主導でルールを厳しくしたり、自治体で共通ルールを設けるような方針では動いていないので、各企業・地域が全体を見渡したうえで何をすべきか考えないといけない点がサーキュラーエコノミー推進のボトルネックな気がします。これからは全体を見たうえで自社固有の課題や取組を整理していくフェーズかもしれませんね。

他社に聞きたいこと



企業の戦略・推進状況

どうやって方針を決めている？



資源循環の出口

回収した後どうしてる？



社内意識醸成

社員を巻き込むコツは？



リサイクル実情

コストや技術のリアルな話



コラボ企業探し

一緒にやるパートナーが欲しい



環境教育コンテンツ

どんな教材を使ってる？

✔ ポイントおさらい



みんな同じ課題を持つ仲間や、先進事例を知りたいようですね。

担当者の方だけで悩むのではなく、同じ悩みを持った方と横でつながることができると、課題と一緒に解決できるかもしれません。

他の会社がどうやってるのか、成功も失敗も含めてシェアし合える場をごみの学校でつくれると良いなと思います。

寺井さんからのコメント



他社に聞きたい内容も全体感としての「脱プラ事例」というよりは、「オフィスでプラごみを分別するにはどうするか？」のような具体的な事例を探しておられるケースが多かったです。自分たちの規模感やフェーズに即した適切な規模感の事例を知る機会を創るという事が大切なのかもしれません。

アンケートから見えた声として、
サーキュラーエコノミーという全体的な流れについては
理解しているものの、個別の成功事例や具体的なやり方などを
模索されている方々が多かった印象でした。

絶対的な正解が無く、利益が出ればOKということでもない
領域だからこそ色々な企業や組織が立場を超えて
議論を重ねていきながら、少しずつ成功や失敗を積み重ねていく
しかないのかもしれない。

ごみの学校としても皆さんの取組が進展するような場を
今後つくっていくことの必要性を感じましたので、
改めて企画をしていきたいと思えます。